

卒後40周年クラス会

い ない こう き
井 内 康 輝 (昭和49年卒)

私達のクラスは、昭和43年（1968年）に広島大学医学部医学進学課程に入学、昭和49年（1974年）3月に卒業し、今年2014年に卒後40周年を迎えました。私達の医学部学生時代は、いわゆる“大学紛争”の時代で、入学した年の秋から、学内（千田町キャンパス）は騒然とした雰囲気であり、クラス内でも様々な社会問題・大学問題について討論がしばしば開かれていました。翌年1969年2月に、大学会館で開かれた全学集会において、学生による“ストライキ宣言”が行われ、全ての授業は停止、学年末試験も行われていないという異常事態となりました。その後、千田町キャンパスは学生の手によって、正門などが机や椅子によってバリケード封鎖され、大学

の本部建物は学生によって占拠されてその活動の拠点となりました。その時にあたり、医学部病理学第一講座の教授であった飯島宗一先生が学長となられ、学生との団交においても堂々と渡り合われたことは印象に残りました。半年後のその年の8月、広島県警機動隊によって封鎖の解除が行われ、同年秋からは学生生活が戻ってきましたが、教養部（医学進学課程）時代の半分は紛争によって学業とは無縁の生活を送りました。また、紛争の後遺症として、紛争に深く関与した何名かの同級生は、その後、医師としての道をすみませんでした。

このような状況でしたので、卒業時、全学の卒業式は広島市公会堂で行われましたが、



写真1



写真 2

医学部としての学位記授与のセレモニーはなく、卒業アルバムも作っていません。また、いわゆる謝恩会も学生主催ではなく、教授会の先生方が研究棟 2 階の会議室で開いて下さったことを覚えています。

こうして私達のクラスは、100名で入学して96名で卒業しましたが、卒後20年間はクラスで集まることはありませんでした。紛争の後遺症といえるかもしれません。しかし卒後20年目を迎え、数名で話し合い、はじめてクラスで集まることを企画すると同時に、卒業時に作れなかった卒業アルバムを作成しようということになりました。3月某日に、広島市内のホテルには66名が集まり、百々次夫先生や澤村十蔵先生をはじめ15名の恩師もお呼びして盛大な会となりました。また、現在あるいは過去の写真1枚とともに、ほぼ全員の寄稿によって記念アルバムができあがりました。

それからは毎年2月にクラス会を開くこととし、毎年20名～30名が広島市内で集まるようになり、ときに同級生のお世話で尾道や北

九州などへも出かけることとなりました。卒後30年目は、福岡県の二日市温泉を会場とし29名が集まりました。現在96名の卒業生のうち4名が逝去しましたが、比較的元気に過ごしている者が多いクラスといえます。年齢は65歳となり、公的病院等では定年退職を迎えた者もあり、開業している者の中にも閉院して悠々自適の生活に入る者もでてきています。

2014年2月22日、愛媛県の道後温泉にて卒後40周年記念のクラス会を開催しました(写真1)。23名の参加で、貸し切りのマイクロバスで広島と道後を往復し、往路では飲み過ぎた者が出る始末で、復路では、松山城などの松山市内を巡り(写真2)、今治のタオル美術館を訪れ、しまなみ海道の海鮮七輪バーベキューの店で食事をし、楽しい思い出を作りました。

今後も皆の健康が続くことを祈り、広仁会の発展にも寄与していきたいと考えております。

報女会仁広

平成26年7月



第86号

広島大学医学部医学科同窓会誌